

■ 広島飛ばしをなくせ!  
新アリーナ構想で“魅力ある広島”へ

Q 知事は、若者や女性が住みたくなる地域づくりのため、音楽やスポーツなど“楽しみ”の振興に取り組むと表明している。しかし、現在のグリーンアリーナはコンサート利用などに制約があり「広島飛ばし」の一因になっている。広島駅北口で検討されている新アリーナは、コンサートや国際イベントなど多機能な施設として期待されており、知事の政策と合致している。この構想をどのように受け止め、オール広島での取り組みに協力要請があった場合どのように対応するのか。

A (横田知事)  
新アリーナが実現すれば、広島市都心の魅力向上や関係人口の増加につながる可能性があると考えている。現在、関係団体による勉強会が開催されており、今後具体的な協力要請があった場合には、どのような支援ができるのか検討していく。

ニュース! NEWS  
広島市とJR西日本が  
広島駅北口開発「オール広島」で  
新アリーナ建設に向け連携へ!!

＼ 若者の声を政治へ /  
インターン生と活動!

2~3月にかけて、大学生インターン2名を受け入れました。議会での議論や企業・地域の現場を共に回り、社会課題に触れながら学びを深めました。私自身も多くの気づきと刺激をいただきました。その声を今後の政策にしっかりと活かしてまいります。これからも若い世代と共に考え、共に動く政治を進めていきます。



株式会社モルテン様を視察し、「モノづくり」を学ぶ

ひろしまCampsを視察

朝の街頭活動

横田知事との意見交換

(株)ニックス様で介護体験

温品学区の地区防災計画づくり

今年度、温品学区自主防災連合会が内閣府のモデル事業に指定され、地域の皆さんと地区防災計画づくりを進めてきました。これまでに3回のワークショップを開催し、防災士や地域団体、内閣府・県・市の防災担当、大学の先生などが参加。全国の事例を学びながら「地域で何に取り組むのか」「誰が主体となるのか」を話し合い、地域に合った防災の形を考えてきました。防災は難しく考えがちですが、「楽しく・ワクワク」しながら取り組むことの大切さも改めて実感しています。この活動で防災キャラクターも誕生し、地域団体や企業との繋がりが広がりました。私も地域の皆さんとともに、「顔の見える防災」を進め、安心して暮らせる地域づくりに取り組んでまいります。

広島県議会議員 かきもと忠則事務所  
〒732-0033 広島市東区温品 5-2-18  
電話/FAX: 082-554-8323  
メールアドレス: t.kakimoto2122@gmail.com  
携帯: 090-7500-0534

スタッフより  
事務員の萩原(すずはら)です。月・水の10時~14時まで、事務所にいますのでお気軽にお立ち寄りください。

かきもと忠則  
公式LINE@  
身近な情報発信中! 友達募集中

かきもとただのり  
柿本忠則  
プロフィール

1982年3月23日 尾道生まれ  
2000年 私立如水館高等学校卒業  
2000年 JR西日本入社  
駅務、車掌、  
新幹線運転士など経験  
2019年 広島県議会議員(東区)  
初当選 現在2期目

【委員会】  
▼ 総務委員会 副委員長  
▼ 産業競争力強化・  
人手不足対策特別委員会  
▼ 広報委員会

【地域とのつながり】  
▼ 温品学区社会福祉協議会理事  
▼ 東区PTA連合会 会長  
▼ 温品中学校PTA会長  
▼ 温品小学校PTA会長歴任  
▼ 温品おやし苦楽部  
▼ 地区防災士・温品消防団(部長)  
▼ 東区剣道連盟顧問  
▼ 東区愛好会ビーチボールバレー顧問  
▼ その他クラブチーム(青少年)の顧問

【主な役職】  
如水館高校OB会広島地区副会長  
PHP 広島松下幸之助経営研 理事  
広島西岡税会 理事  
広島県自衛隊家族会賛助会員

創ろう  
未来の広島!

広島県議会議員  
＜東区＞

かきもと 忠則

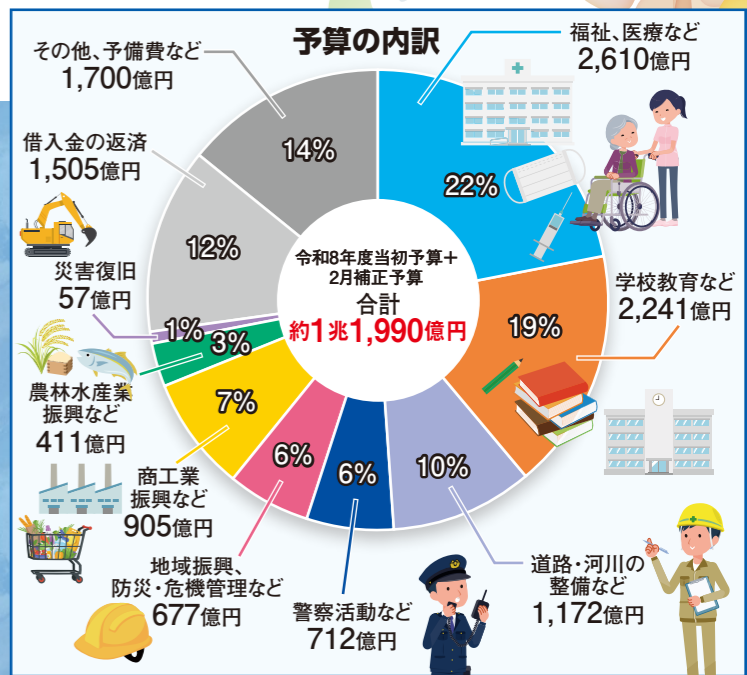
かっきーがむしゃら通信 Vol.27

広島県の向こう1年間の施策や方向性を決める重要な2月議会が行われました。本議会においても登壇の機会をいただき、この間取り組んできた課題やいただいた要望、地域課題について質問しました。引き続き、人口減少や若者の転出超過など待たなしの県政課題、身近な地域課題にしっかりと向き合ってまいります。

トピックス  
TOPICS

▶ 横田知事 初の当初予算が成立  
令和8年度の当初予算+2月補正予算  
約1兆1,990億円が可決!!

人口減少対策や地域活性化、物価高対策など、  
県民生活を守り将来の成長につなげる施策を盛り込む。



▶ 公益通報制度の見直し

公益通報制度について県議会からも運用の透明性や信頼性の確保を求める厳しい意見!これを受け、2026年4月から新たな組織体制・運用スキームで県民の信頼を取り戻す。

▶ 県立高校の再編計画(18校を7校に再編)

地域への影響が大きいので、地域住民、生徒・保護者、教育関係者などの意見を丁寧に聞きながら、慎重に進めるよう求める。

広島県の基本方針

人口減少や物価高など厳しい社会情勢の中でも、「県民が誇りを持ち続けることができる広島県」を目指し、「人を惹きつける地域づくり」「県民の安心・安全な基盤づくり」「核兵器のない平和な世界の実現」「安心・安全な暮らしの確保」などに取り組む。

重要施策と主な新規事業

人を惹きつける地域づくり

主な新規事業

- 子どもの職場体験支援事業 800万円
- 文化芸術の魅力発信事業 1,800万円
- 半導体関連産業集積促進事業 5,000万円
- 子どもの居場所づくり推進事業 1,100万円
- 学校給食負担軽減事業 78億6,100万円

県民の安全・安心な暮らしの基盤づくり

主な新規事業

- 地域農業将来ビジョン構築支援事業 1,700万円
- 中山間地域課題解決型起業支援事業 3,000万円

物価高・米国関税措置への対応

主な新規事業

- 小規模事業者等支援体制強化事業 5,400万円
- 中小・小規模事業者などの計画的経営改善応援補助事業 8億2,200万円

かきのへい死対策

- かき生産安定緊急対策事業 23億4,900万円

核兵器のない平和な世界の実現

# 2月議会 一般質問で登壇!!

2月定例議会の動画はこちら



## 認知症になっても安心して暮らせる広島へ

### ■ 新たな認知症治療が受けられる医療体制を

Q 認知症の新薬「レカネマブ」や「ドナネマブ」が承認され、県内でも治療が始まっている。治療には専門的な検査や医療機関の連携が必要であり、必要な方が適切に治療を受けられる体制整備が重要。県として、医療機関の連携体制の構築や、新しい治療方法を県民へどのように情報提供していくのか?



A (健康福祉局長)

県では、認知症対応力向上研修の実施、認知症サポート医の養成、認知症疾患医療センターを中心とした連携強化に取り組んでいる。また、新薬治療に必要な検査や投与が可能な医療機関の調査を行っており、今後は医療機関情報を県のホームページで分かりやすく発信するとともに、地域包括支援センターなどとも連携し周知していく。

### ■ MCI(軽度認知障害)の早期発見と支援を!!

Q 認知症の新薬は、軽度認知症や軽度認知障害(MCI)の段階での治療が対象となる。MCIは早期の対策により改善の可能性もあるが、本人や家族は将来への不安を抱えやすく、相談先が分からないという声もある。県として、MCIの正しい知識の周知や早期受診につなげる取組、本人や家族への支援をどのように進めていくのか?

A (健康福祉局長)

県では、認知症月間に合わせた講演会の開催や、認知症の気づきチェックリストのホームページ掲載などにより啓発を行っている。また、かかりつけ医向け研修やオレンジドクターの認定、認知症疾患医療センターの設置などにより早期受診体制を整備している。電話相談窓口の開設や認知症カフェの案内など、心理的支援にも取り組んでいる。



## 経済対策!挑戦するなら広島で

### ■ 未来産業を生み出すスタートアップ支援

Q 県では、スタートアップ支援や「ひろしまユニコーン10」など未来産業の育成に取り組んできた。しかし、他県と比べ成功事例が少ないことや産学官連携、海外展開の弱さが課題と指摘されている。今後広島がスタートアップの集積地やユニコーン企業の創出などの未来産業基盤づくりをどのような方向性で進めていくのか?

A (横田知事)

県では半導体、バイオ、環境エネルギーなどの成長産業の育成やスタートアップ支援を進めてきた。産学官連携などが評価され、今年度は、国のスタートアップ拠点都市にも選定された。今後はオープンイノベーションの促進やベンチャーキャピタルの投資呼び込み、開発実証の推進などにより成功事例を生み出し、「挑戦するなら広島で」と選ばれる地域を目指す。



### ■ 広島から成長企業を生み出す!! スタートアップ支援とCFO人材の育成

Q スタートアップの成長には資金調達だけでなく、事業戦略や人材確保、ネットワークづくりなど多面的な支援が必要。特に財務戦略を担うCFO人材の不足は地方の大きな課題となっている。県では「CFO BASE HIROSHIMA」を立ち上げたが、スタートアップとCFO人材が出会う機会はまだまだ十分とは言えない。今後、どのようにスタートアップ支援を強化し、両者が結びつく環境を整備していくのか?

A (商工労働局長)

県では、経営相談窓口の設置やCFOコミュニティと連携した勉強会などの実践的プログラムを実施してきた。これによりCFO人材の採用や経営スキル向上、ネットワーク形成などの成果も出ている。今後は資本政策支援をさらに強化し、知的財産戦略の支援などを通じてスタートアップの成長を後押しする。



その他、事業承継とM&Aの基盤づくりなどを質疑

## 子育てを支える環境整備の推進

### ■ 搾乳しやすい環境を広島県全体へ

Q 前回の質問以降リトルベビーハンドブックの改定、県内に1つもなかった母乳バンクに広島大学病院が登録するなど前進した。また授乳室などへの「搾乳表示」は県有施設では進んだ一方、市町によって取組に差がある。県のこれまでの取組と市町と連携した環境整備を今後どのように進めるのか?

A (健康福祉局長)

県では、ホームページやSNSでの啓発、県有施設の授乳室での搾乳表示、イクちゃんサービス参加店舗への表示協力依頼などに取り組んできた。市町にも会議等で協力を依頼し、複数の市町で取組が進んでいる。今後も様々な機会を活用し、先進事例の共有など働きかけを強化し、環境整備を進めていく。



政策実現!! 母乳バンクの登録! 想いを込めたハンドブックへ

## “シェア”で地域を元気に

### ■ シェアリングエコノミーで関係人口拡大

Q シェアリングエコノミーは、遊休資産や個人のスキルを共有することで新たな価値を生み出す仕組みで、市場規模は今後大きく拡大すると見込まれている。人口減少社会の中で地域課題の解決や関係人口の拡大にも有効な手法で、県内でも市・町による取組が始まっているが、県内市町にもシェアリングエコノミーの考え方を浸透させていくべきではないか?

A (横田知事)

シェアリングエコノミーは、人材や施設など地域資源を有効活用し課題解決につなげる重要な考え方。県でも人材マッチングや空き家バンクなど、シェアの概念に通じる取組を進めている。来年度は中山間地域で地域の困りごとと都市部の人材を結びつける仕組みづくりを進め、今後は市町に取組事例を共有し本県の施策でも、関係人口の拡大にもつながるよう取り組む。



## 地域課題

### ■ 渋滞緩和へ 広島高速を利用しやすい料金に

Q 私の住む東区では、中山踏切付近の渋滞や今後府中大川の工事などでさらに交通混雑が予想される。特に通勤時間帯には慢性的な渋滞で、地域住民の生活にも影響が出ている。こうした課題を解消するためにも、広島市と連携し高速1号・5号を試験的に料金値下げし、福田地区や中山周辺から広島駅北に向かう際、広島高速を利用しやすい料金設定にし、利用促進するべきではないか?

A (土木建築局長)

料金については、償還への影響等を考慮しながら、利用者にとって使いやすいものとなるよう検討を進め、広島高速の利用促進と広島市中心部の一般道路の渋滞緩和に向けて、広島市や高速道路公社とも連携しながら、取り組んでいく。

想定利用料金!  
福田~広島駅北 700円以上  
中山~広島駅北 250円以上